



今回の内容

学校長インタビュー

富士見台小学校の校長先生にインタビューしました！

地域防災拠点紹介と防災の心得

イベント開催報告

いま大地震が発生したら…

藤棚ケアプラザまつり！

富士見台小学校インタビュー

和田校長先生にインタビューしてきました！

①富士見台小学校に赴任して、第3地区(西区)はどんな印象ですか？

私は、初任校が西区にありましたので、赴任先が富士見台と決まったとき、とても懐かしくうれしい気持ちになりました。夏休みには、夏祭りに参加させていただいたり藤棚商店街の縁日に出かけたりしました。とても賑やかでみなさんが仲睦まじいまちだという印象です。

②学校の目標「豊かな関わりの中で、ともに高め合い、未来をひらく富士見台」にはどんな思いがこもっていますか？

「豊かな関わり」というのは、子どもの健やかな成長につながる人やことやものとの関わりということです。

子どもたちは、学校で様々な人やことやものに出会い、新しい価値に気付き、自分の世界を広げ、成長していきます。様々な人やことやものに関わる過程で、子どもたちが協力したり切磋琢磨したりして、予測困難な未来を生き抜いていく力を身に付けてほしいと願っています。

③富士見台小学校の子どもたちは、どんな子どもたちですか？

素直で思いやりがあり好奇心いっぱいです。興味のあることには、一途に取り組む集中力をもっています。ペア活動では、上級生が下級生を優しくお世話する姿が見られます。人見知りの照れ屋さんが少し多いですが、慣れてくると「おはようございます」「こんにちは」と人懐こい笑顔で元気な挨拶をかけてくれます。

富士見台小学校の子どもたちのことを、どうぞよろしくをお願いします。



和田 みずほ校長先生

今後のイベント予定

【紙飛行機大会】

予選：2月25日(日)
場所：藤棚地区センター

決勝：3月17日(日)
場所：西スポーツセンター



『ブルースカイ号』

いま大地震が発生したらどうすればいいの？

沢山の方が「大地震が発生したら稲荷台小学校へ避難する」と考えていると思いますが、その「稲荷台小学校地域防災拠点」の概要を紹介するので、皆様の防災意識の参考にしてください。

地域防災拠点は横浜市域で震度5強以上の大地震が発生した時に開設され、在宅避難が困難な被災者が避難する場所であると共に、行政からの災害関連情報や救援物資を地域に届ける役割があります。発災時に防災拠点が速やかに開設され避難出来るよう、対象となる町内会自治会からの代表と市・学校職員が運営委員会を作り、機材・設備の取扱い訓練、防災拠点運営方法の改善を進めています。

西区では12の小中学校が地域防災拠点に指定され、第3地区には唯一「稲荷台小学校」が指定されています。第3地区内では浜松町町内会は西前小学校、県営藤棚アパート自治会・藤棚2丁目東部自治会は西中学校に避難します。残る13町内会自治会と境之谷西部町内会が稲荷台小学校へ避難します。

防災拠点の備えとして学校の備蓄庫には概ね200名程度が避難生活する食料や毛布などが市から提供されており、停電・断水時に対応する器材も収納されています。

また、下水直結式仮設トイレ(ハマッコトイレ)の整備や、飲料水を確保するための設備の充実を年々進めています。

現在、稲荷台小学校地域防災拠点の主な課題は、学校が丘の上にあり避難対象区域も広いことから、高齢者や遠方の方が避難しやすいよう対応策を検討しています。

皆様方には住居の耐震化と最低3日間の水・食料備蓄により、出来るだけ在宅避難に努めていただき、一方で被災された方が安全に避難して生活再建に向かえるよう、防災拠点と地域の協力支援を宜しくお願いします。

記事作成：稲荷台小学校地域防災拠点委員長代行 関口 慎一

11月12日(日)開催 藤棚ケアプラザまつり

藤棚ケアプラザまつりが開催されました。福祉施設から飲食の模擬店や物品販売。ケアプラザからは健康チェックや温かい甘酒の提供がありました。

第1部会とシニアクラブがコラボしている「むかし遊び」もブースを出し、コマやめんこに加えて今回新たに駄菓子すくいも実施しました。

お子さん連れのパパやママ、高齢の方など、幅広い世代みんなが楽しく過ごした一日でした。

